

2009年度冬季研究会

## 水文学説史と現代の課題

2009年春の大会では、「これからの農業水利を考える」というテーマで、3人の報告者の報告をもとに、活発な議論が行なわれました。本会では、近年、農業水利をテーマに取り上げたことがなかったせいか、当初予想していたよりも多くの関心が農業水利をめぐる問題によせられ、大会終了後もさらにこのテーマを深めるような企画が求められています。そこで、せっかく盛り上がった農業水利に対する関心をもとに、今年度の冬季研究会ではこのテーマについてさらに考えていくこととしました。

農業水利に関する研究は、水利研究のなかで質・量ともに主軸をなすものですが、多くの研究の中から現代の課題に関わるものを抽出して研究史上に位置づけ、さらに現代の課題と接合する部分について考察を深めていきたいと考えています。大会でも触れられたように、農業水利は他の水利や総合的な水管理と関わるだけでなく、環境をめぐる諸問題とも多様な接点をもっています。次回の研究会でも、水に関する多様な関心をもった方々の参加と活発な議論を期待しています。

日時 2010年3月13日(土)13:30~17:00

場所：**(社)京都府農協会館 5階会議室**

JR京都駅八条口から徒歩5分

〒601-8585 京都市南区東九条西山王町1番地

TEL.075-681-5169

基調報告 水谷正一 (宇都宮大学農学部)

・コメント秋山道雄 (滋賀県立大学環境科学部)

総合討論 司会 池上甲一 (近畿大学農学部)



\* 研究会終了後、懇親会を予定しています。

\* 研究会等の連絡先 秋山道雄 (滋賀県立大学環境科学部)

TEL :0749-28-8274 FAX :0749-28-8344

E-mail akiyama@ses.usp.ac.jp

**【基調報告要旨】**日本における農業水利の研究は、第二次世界大戦の敗戦を契機にして活発に行われるようになった。そうした水利研究のなかで、1950年代は稲作生産力の停滞性の打破と各地に残る不合理な水利慣行の変革のための骨太な基礎的研究が相次いで公表された時期である。また、1970年代には、経済の高度成長を背景として、変貌しつつある農業水利の対内的・対外的問題が表出したことを受けて、日本における農業水利の基本的な性格を問い直しながらの研究が、再度活発化した時期であった。

この報告では、これら二つの時期に展開された一連の研究のうち、とくにいくつかの代表的な研究を対象としながら、それらが提出した「理論構造」もしくは「モデル」を、その問題背景と課題に照応させながら整理することを第一の目的とする。また、そうした研究史を受け継ぎながら、現時点で究明が必要と思われる水利をめぐる課題の大枠を提出することを第二の目的とする。

## **【構成】**

1. はじめに
2. 第一期（1950年代）の研究
  - 2-1. 背景
  - 2-2. 渡辺洋三『農業水利権の研究』（1954年）
  - 2-3. 金沢夏樹『稲作の経済構造—その停滞的要因と水利』（1954年）
  - 2-4. 新沢嘉芽統『農業水利論』（1955年）
3. 第二期（1970年代）の研究
  - 3-1. 背景
  - 3-2. 永田恵十郎『日本農業の水利構造』（1971年）
  - 3-3. 玉城 哲・旗手 勲『風土—大地と人間の歴史』（1974年）
  - 3-4. 志村博康『現代農業水利と水資源』（1977年）
4. 今日、期待される水利学的研究
  - 4-1. 背景
  - 4-2. 河川水利分野
  - 4-3. 農業水利分野
  - 4-4. 圃場・水利システムと生態系保全分野